

公立大学法人宮崎公立大学

平成20年度の業務実績に関する評価結果

平成21年11月

宮崎公立大学事務組合公立大学法人評価委員会

目次

1	公立大学法人宮崎公立大学の事業年度ごとの業務実績評価方法	・・・ 1
2	全体評価	・・・ 2
3	大項目別評価	・・・ 4
4	平成20年度事業年度評価に係る 項目別評価結果総括表	・・・ 9

1 公立大学法人宮崎公立大学の事業年度ごとの業務実績評価方法

「項目別評価」及び「全体評価」により構成する。評価委員会は公立大学法人の作成した実績報告書をもとに、公立大学法人の意見を聴取しながら評価を行う。

なお、教育研究については、その成果が現れるまでには一定の期間を要することから、年度計画の評価は事業の進捗状況の確認等により行う。

(1) 小項目別評価（基礎資料）

年度計画の小項目記載事項ごとに、事業の進捗状況・実績について以下の4段階により評価を行う。公立大学法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を記載する。また、特記事項等についても記載する。

Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を順調に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施できていない
Ⅰ	年度計画を実施していない

(2) 大項目別評価

(1)の結果を基礎資料とし、年度計画の大項目(*)ごとに、以下の5段階により、その進捗状況・実績について評価を行う。なお、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

*大項目

教育研究等の質の向上／業務運営の改善及び効率化／
財務内容の改善／自己点検・評価及びその情報公開／
その他の業務運営／予算

S	(秀) 特筆すべき進行状況にある (特に認める場合)
A	(優) 計画どおり (すべてⅢ～Ⅳ)
B	(良) おおむね計画どおり (Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	(可) やや遅れている (Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	(不可) 重大な改善事項がある (特に認める場合)

(3) 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、公立大学法人の業務全体の実績評価について、記述式により、年度計画や中期目標、中期計画を総括する。また、地域の高等教育機関として更に発展するために、大学の特色ある取り組みやさまざまな工夫について積極的に評価し、広く公表する。なお、必要に応じて組織や業務の課題や改善点等も記述する。

2 全体評価

(1) 総評

宮崎公立大学は、平成5年4月の開学以来、「高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学」という建学の理念・目的に沿って教育研究や地域貢献の充実に積極的に取り組み、地域に開かれた大学として成長してきたところである。

今日の大学を取り巻く状況は、急激な少子化と18歳人口の減少、そして大学全入時代の到来により、大学間競争に一層拍車がかかっている。そのような中、同大学は、なお一層発展していくため、平成19年4月に、公立大学法人化を経て現在に至っている。

法人化2年目である平成20年度の業務実績に関する評価結果を点検した結果、昨年度の当評価委員会の評価を踏まえ、理事長や学長のリーダーシップのもと、教職員が一枚岩となり、迅速性、計画性及び柔軟性のある大学運営に意欲的に取り組んでいることがうかがえる。

教育研究等の質の向上については、FD活動として学生評価の分析を実施、報告書を作成し、組織として活用していること、大学間単位互換制度の推進や理事長・学長特別配当枠研究事業の実施など、教育を重点目標とする本学の業務実績として高く評価できる。

特に、地域貢献については、韓国語や中国語の語学講座へ地域住民が多数参加した実績、宮崎市教育委員会や宮崎商工会議所等と連携事業を積極的に推進していることなど、地域への貢献度は高く、年度計画を上回って実施していると評価した。

また、業務運営の改善及び効率化については、問題意識の高さを反映して、平成20年度に年度計画を上回ってプロパー化計画が実施されたこと、及び財務内容の改善について外部資金応募のための情報提供方法を見直しその活用を教員へ呼びかけるなど体制づくりを充実したことは、高く評価できる。

さらに、人権に関する取組として、セクシャルハラスメントをはじめハラスメントに対する大学全体での啓発活動や施設設備の改善など、その取組は極めて意欲的であると認められる。

なお、同大学の特色である学習習熟度チェックリスト（PACS）の構築と実施について、同大学では、当初の計画を変更したために「年度計画を十分には実施できていない」と評価しているが、これは共通のシラバスを新たに策定して望んだ「基礎Ⅰ・Ⅱ」の充実とともに、学生の実情に合わせ、常にチェックを繰り返している結果と考えられる。評価結果としても、年間計画を達成できていないと評価をしたが、大学側の自己評価における真摯な姿勢は特記しておきたい。

全体的には、中期目標・中期計画の全体像の中での平成20年度の実施状況は概ね好ましい進捗状況にあると評価できる。教育システムの更なる充実並びに学術研究、地域社会貢献及び地域との共同研究などにおける一步踏み込んだ展開があれば、さらに魅力ある大学になるものと思われる。

今後、FD活動の実効性を高めるとともに、進捗がやや遅れている学習習熟度チ

チェックリストについては、本年度の検討を活かし、本学独自の教育基盤研究 PACS（チェックリスト・システム）の実施に向けたシステム構築に着手し、教育を重視する大学として着実な成果を積み重ねることを期待する。

(2) 今後の課題

- ① 「地域社会に貢献する研究の支援」については、地域貢献コーディネーターを任用して行うなど「連携」の面では評価されるべきものが多いが、学生の参加だけでは研究レベルに限界があり、教員による高度な研究の成果による実績も目指して欲しい。
- ② 「科学研究費補助金申請件数増加のための組織的取組」については、申請件数も若干増加したようではあるが、今後はさらに採択という成果に向けて、人文系の研究者に以前よりも門戸が広げられている昨今の現況などの情報を周知させる努力も考えて欲しい。
- ③ 中期計画において就職内定率95%という目標があることもあり、厳しい社会情勢の中ではあるが、様々な機会を捉えて就職内定率の向上に努めていただきたい。
- ④ 大学の「実施状況・判断理由等」については、業務実績の進捗度を評価する根拠となるものであるので、簡潔でわかりやすい記載が求められる。

3 大項目別評価

3-1 教育研究等の質の向上

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり）

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数90項目に対して、「年度計画を上回って実施している（Ⅳ評価）」又は「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」と評価した項目が88項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり）とする。

〔参考〕小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
90	8	80	2	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

- ・学生への情報提供体制を充実したことにより参加者が大幅に増加したことは大きな成果である。（「異文化実習」の参加促進）
- ・地域との連携・貢献への取り組みが高く評価できる。地域について知識と情報を育み、郷土愛育成へと繋がる素晴らしい試みであり、今後も継続していただきたい。（教育委員会との連携）

イ 遅れている点

- ・システム構築が遅れた結果、平成21年度の計画の変更を行った。
（チェックリスト・システムPACSの構築と導入に関する研究）

(3) 評価委員会の意見等

- ・講義の履修と検定試験の連動、市民向けの講座で留学生や学生等に活躍の場を与えるなどシステム化が進んでいる。また、市民向けの講座開設についても評価できる。（中国語・韓国語の能力の伸長）
- ・外部団体と連携を促進しており、学生の学びの場を拡大したと評価する。
（中国語・韓国語の外部試験受験の促進）
- ・学生による授業評価を実施し、評価内容の分析をし、報告書の作成・配布を行ったことは、高く評価できる。（FD活動の充実）
- ・高等教育コンソーシアム宮崎におけるコーディネイト科目を学内で実施しており、学内施設の有効利用とユニークなコーディネイト科目を設定の上で、実社会の第一線で活躍する講師を招くなど、学生の学習意欲向上を目指した取り組み及び教授陣の積極的な参加を評価する。単位互換制度の推

進に期待が持てる。(大学間単位互換制度の推進)

- 93.7%の内定率は、この社会状況下では高いと思われることから、進路支援の努力を評価する。(就職活動支援室の機能強化)
- キャリア教育の強化のためにも、学生に接する教員の支援が望まれる。(資格・検定試験の支援体制整備)
- 同窓会・後援会との連携が促進されていることを評価する。(同窓会・後援会との連携強化)
- 計画の遅れはあるが、チェックリストの検討、作成、実施過程における変更など努力は十分に認められる。(チェックリスト・システムPACSの構築と導入に関する研究)
- 理事長・学長特別枠研究事業は、大学がいかに改革を進めようとしているか意気込みが感じられる。(研究内容の公開及び重点研究分野の検討)
- 自主講座として実施した「高齢者向けインターネット体験講習会」は社会的ニーズも高く、地域住民への多大な貢献になる。(生涯学習ニーズへの対応)
- 地域貢献研究事業報告会において参加者の意見を次年度に繋げようとする動きは、21年度以降の拡充に期待が持てる。(市民との協働研究の検討)

3-2 業務運営の改善及び効率化

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり)

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数16項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
16	1	15	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

・特になし。

イ 遅れている点

・特になし。

(3) 評価委員会の意見等

・より客観的な視点で大学運営を評価することは、大きな意味がある。

(学外有識者の法人役員・審議会委員会への任用)

3-3 財務内容の改善

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B (おおむね計画どおり)

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数15項目に対し、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価した項目が14項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価(おおむね計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
15	1	13	1	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

・特になし。

イ 遅れている点

・特になし。

(3) 評価委員会の意見等

・特になし。

3-4 教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり)

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数2項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
2	0	2	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

・特になし。

イ 遅れている点

・特になし。

(3) 評価委員会の意見等

・業務運営に係わる自己点検・評価の実施、体制の見直しなど、十分評価できる。(自己点検・評価の実施体制の整備と見直し)

3-5 その他業務運営

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり）

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数13項目に対し、「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」と評価した項目が12項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり）とする。

〔参考〕小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
13	0	12	1	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

・特になし。

イ 遅れている点

・特になし。

(3) 評価委員会の意見等

・積極的な取り組みは評価できる。（ハラスメントの排除、啓発、相談等の体制の整備）

4 平成20年度事業年度評価に係る項目別評価結果総括表

(大項目) (中項目) (小項目)	項目数	項目別内訳				項目別構成割合				計	平均値	備考
		評価Ⅳ	評価Ⅲ	評価Ⅱ	評価Ⅰ	評価Ⅳ	評価Ⅲ	評価Ⅱ	評価Ⅰ			
第2 教育研究等の質の向上に関する目標	90	8	80	2	0	9%	89%	2%	0%	276	3.07	
1 教育研究等の質の向上に関する目標	55	2	52	1	0	4%	95%	2%	0%	166	3.02	
(1)教育内容と方法に関する目標	16	2	13	1	0	13%	81%	6%	0%	49	3.06	評価Ⅱ:年度計画No.1、評価Ⅳ:年度計画No.12、No.15
(2)教育支援体制に関する目標	9	0	9	0	0	0%	100%	0%	0%	27	3.00	
(3)学生支援に関する目標	18	0	18	0	0	0%	100%	0%	0%	54	3.00	
(4)学生の確保に関する目標	12	0	12	0	0	0%	100%	0%	0%	36	3.00	
2 研究に関する目標	20	3	16	1	0	15%	80%	5%	0%	62	3.10	
(1)研究の方向と水準の向上に関する目標	11	2	8	1	0	18%	73%	9%	0%	34	3.09	評価Ⅱ:年度計画No.56、評価Ⅳ:年度計画No.60、No.62
(2)研究体制等の整備に関する目標	9	1	8	0	0	11%	89%	0%	0%	28	3.11	評価Ⅳ:年度計画No.70
3 地域貢献に関する目標	14	3	11	0	0	21%	79%	0%	0%	45	3.21	
(1)教育研究成果の地域への還元に関する目標	13	3	10	0	0	23%	77%	0%	0%	42	3.23	評価Ⅳ:年度計画No.76、No.84、No.86
(2)地域の国際化及び国際理解に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	
4 魅力ある大学づくりに関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	16	1	15	0	0	6%	94%	0%	0%	49	3.06	
1 組織運営の改善に関する目標	7	0	7	0	0	0%	100%	0%	0%	21	3.00	
(1)機動的な運営体制の確立	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
(2)予算の戦略的で効率的な活用	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
(3)外部意見の積極的な活用	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
2 人事の適正化に関する目標	9	1	8	0	0	11%	89%	0%	0%	28	3.11	
(1)法人化のメリットを生かした人事制度の構築	6	1	5	0	0	17%	83%	0%	0%	19	3.17	評価Ⅳ:年度計画No.99
(2)人事評価制度の確立	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	再掲:年度計画No.17
第4 財務内容の改善に関する目標	15	1	13	1	0	7%	87%	7%	0%	45	3.00	
1 自己収入の増加に関する目標	8	1	6	1	0	13%	75%	13%	0%	24	3.00	評価Ⅳ:年度計画No.70(再掲)、評価Ⅱ:年度計画No.109
2 経費の抑制に関する目標	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00	
3 資産の運用管理の改善に関する目標	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
第5 教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
1 自己点検・評価に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
第6 その他業務運営に関する重要目標	13	0	12	1	0	0%	92%	8%	0%	38	2.92	
1 施設設備の整備・活用等に関する目標	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	再掲:年度計画No.81
2 安全管理に関する目標	5	0	4	1	0	0%	80%	20%	0%	14	2.80	評価Ⅱ:年度計画No.126
3 情報公開の推進に関する目標	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
4 人権に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
合計	136	10	122	4	0	7%	90%	3%	0%	414	3.04	